



JFA復興支援

がんばろう  ニッポン!

サッカーファミリーのチカラをひとつに!

JFA復興支援特任コーチ
手倉森 浩



「共に」寄り添う

今年2月に就任し、前任者よりアドバイスを受け、被災地の方の考え、想いを引き出していけるように寄り添う形で活動する」ことを心がけ、被災地に赴き、活動してきた。

岩手県・宮城県では、4種のチームを中心に前半は現状把握と活動支援をメインに、後半は活動支援に加え、トレセンや大会のサポートなどを行なってきた。

福島県は、相双地区以外は震災前の活動が戻りつつあることから、継続的な活動である地区トレセンを通じて選手・指導者が向上し将来に残る取り組みをしてほしい、との福島県の要望から地区ごとに担当としてトレセンコーチを割り当て活動をサポートした。

震災から2年9ヶ月が経ち、復旧には格差があり、目に見えない問題も多々あるが、サッカーをやっている時は選手も指導者も元気で、見守る保護者の方も元気であることが印象的だった。







担当地域・スタッフ

全体統括 : 手倉森 浩 (復興支援特任コーチ)

岩手県サポート: 菊池 利三 (ナショナルトレセンコーチ)

宮城県サポート: 山路 嘉人 (ナショナルトレセンコーチ)

福島県サポート: 山崎 茂雄 (ナショナルトレセンコーチ)・大野 真 (ナショナルトレセンコーチ)

- ・ サポートは、手倉森コーチならびに各FAとの連携を密にし、円滑な実施に努める。
- ・ 必要に応じて女子トレセンコーチも関わる。

◎福島県地区トレセン担当

県北 : 池内豊・高倉麻子※・菊池利三

相双 : 大野真・山路嘉人

県南郡山: 山崎茂雄・木村康彦・片渕浩一郎

県南白河: 山口隆文・須藤茂光・加藤賢治※

いわき : 布啓一郎・アカデミー福島コーチ

会津 : 眞藤邦彦・川俣則幸

※ 女子トレセンコーチ





各地域訪問頻度

FA	地区	訪問回数
岩手県	岩手沿岸地域	47
宮城県	仙南	32
	若林	13
	宮城野	24
	県北	13
	石巻	24
福島県	県北	2
	相双	4
	県中郡山	6
	県南白河	7
	いわき	5
	会津	3



岩手県・宮城県

- 2月～3月 : 各県協会へ挨拶～自分の目で被災地を見る
4月～5月 : 練習環境情報視察(練習場・頻度)
6月～8月 : チームの要望調査と選手・指導者への指導
8月～10月 : チーム視察と指導・大会視察
被災地サッカー教室・福島トレセン
復興支援サッカー大会・チャリティフットサル
11月～現在 : 岩手沿岸・石巻・宮城県北トレセン視察と情報収集

震災から2年9ヶ月経過

- ・ 復興計画が具体的に見えていない
- ・ 仮設住宅3年目(移設先決まらない)
- ・ 練習場、試合会場がない(仮設住宅がある)
- ・ 沿岸部は瓦礫が片付いただけ
- ・ 津波の爪痕はまだ各地に残っている
- ・ 思い出しフラッシュバック(不眠/イライラ)

→ 被災前の日常に戻れない



岩手県・宮城県

サッカー環境

現在、活動ができないチームはない。

以前は練習場所の不足から、練習の度に転々としおり、会場決定も直前であったが、現在は充分ではないが、決まった場所で練習ができていることで、保護者が安心している。

環境の変化により、サッカーを再び始める子が増えている。ただし、震災前の状況にはまだまだ戻っていないものも多く、県別で状況も異なる。

宮城県はベガルタ仙台があることで、Jクラブや個人的な支援が多いが、岩手県にはなかなか支援が届かない。



岩手県・宮城県

サッカー環境

課題

- 仮設住宅で狭い/使えない ⇒ 体育館で練習
- 他競技とのシェア
- 保護者の送迎負担
- 試合会場の不足
- 遠征することが多い ⇒ 交通費増(親の負担増)
- 練習場使用料/照明代の負担

※ 現在は補助金・登録料免除があるので活動ができている。



サッカーの持つ力

サッカー界からの継続的支援

- ・ キリンスマイルフィールド
- ・ 夢先生
- ・ 関係各所からの支援

指導者の頑張り

- ・ チームを存続させる
- ・ 練習場確保
- ・ 休日返上で遠征

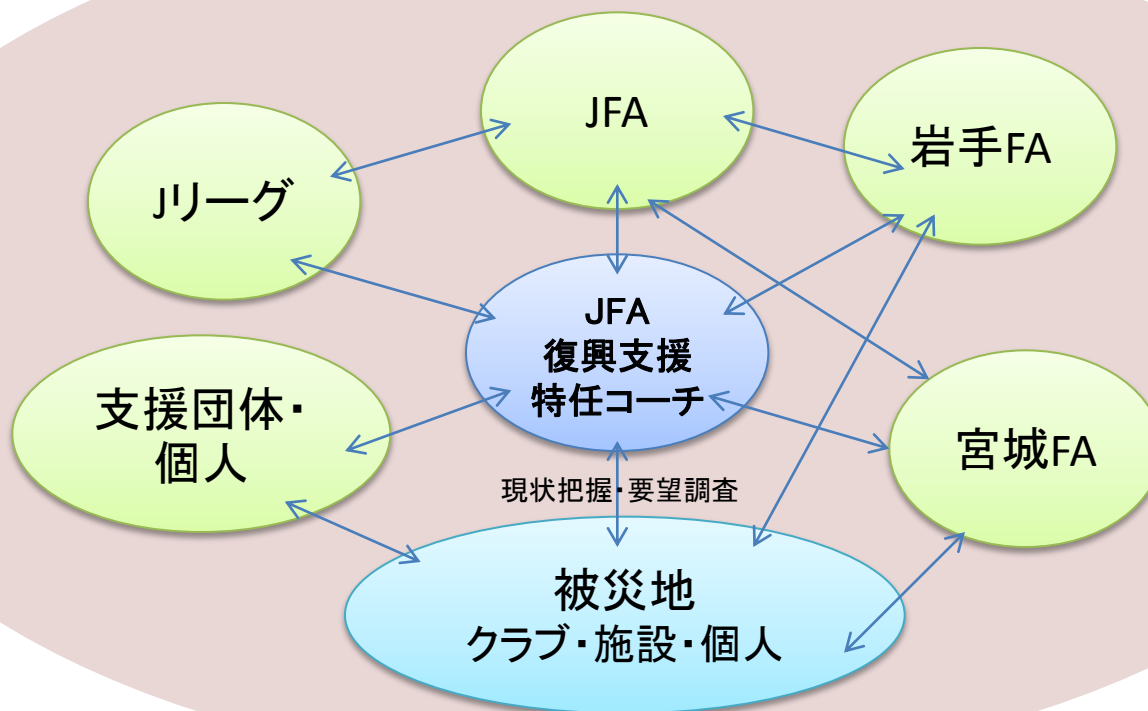
地元の方から
「サッカーはよく来てくれるね。」
との声

サッカーを定期的に行える環境

子供たちの元気な姿/プレー → 保護者の安心



サッカーの持つ力



サッカー界では、JFA、Jリーグ、Jクラブをはじめ、各種団体から様々な支援がされている。JFA復興支援特任コーチに就任し、その支援を有効的に活用するために、現地の状況を把握し、公平に物資が行き届くよう各団体間の調整をする役割や支援を名乗りでくれるチームに対し、地元が求めているものを伝え、イベント開催に繋げるなどのパイプ役としての務めが多くある。



岩手県・宮城県

サッカーを定期的に行える環境の提供・充実



震災前の日常を取り戻す！

会場の充実

ゴールや照明などの物資支援により、試合会場・練習会会場の充実が図られる。

また、フットサルゴールの支援により、冬場の体育館での練習場確保により、定期的な活動が可能となる。

近隣での試合が可能となり、遠征費・保護者の送迎負担等が軽減される

→ 2013年のJFA・Jリーグからの物資援助で改善されてきている。



岩手県・宮城県

□指導者へのサポート

- ・ 被災者の指導者登録料の免除（実施済）
- ・ ライセンス取得&更新の支援
 - ⇒ 近隣での指導者講習会・指導者研修会（リフレッシュ）の開催
- ・ トレセン活動のサポート
 - ⇒ 再開できていない、問題が起こっていると聞いた。
トレセンスタッフにコンタクトを取り現状を確認し、困ってることを聞き協力していく。（特に宮城県県北・石巻）



指導者が活動を継続できるようにサポートすることが、子供たちの定期的なサッカー環境の整備に繋がる。

そのために頻繁に訪問し、指導者から話を聞いたり、一緒に指導するなど、要望に応じていく。



福島県

昨年からの継続でもある「寄り添いサポートする」距離感をベースに、「子どもたちと指導者のレベルアップ」を図った。

特に地区トレセンスタッフへのアプローチでは、ナショナルトレセンコーチが指導実践者やサポートコーチなどを担い、分析力やコーチング力の向上に努めた。

また、トレセンに限らず高校、中学校の部活動(相双地区)や一般の子どもたち対象の「フェスティバル」(県中郡山地区)を開催し交流の幅を広げられたことは有意義であった。



5月1～2日 県北トレセン



5月18日 会津トレセン

活動報告



福島県



6月5日 いわき市トレセン



7月25日 相双地区トレセン



9月12日 県南白河トレセン



10月19日 相馬光陽サッカー場リニューアルオープン
セレモニー&キリンスマイルサッカー教室



11月16日 郡山県中トレセン



福島県

県の方々の要望を聞きながら、トレセン活動を軸にサポートしてきたが、トレセン以外の子供たちにもサッカークリニックのような場を提供して欲しいという新たな要望も上がっているので取り組んでいきたい。

また、福島県双相地区に完成した光陽サッカー場ができたことで、福島県内のトレセン大会や交流会などの開催や、近隣に位置する宮城県との交流が盛んになることから、指導面でのサポートにも力を入れていきたい。

今後も、継続して地域の要望を聞き、例えば実施回数を増やすためのスタッフの配置や内容の向上等について検討したり、トレセン以外でもできるだけ多くの子供たちと触れる機会が増えるように活動していきたい。

